

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292100031		
法人名	(有)弦観光		
事業所名	グループホーム 壱岐の郷		
所在地	長崎県壱岐市石田町筒城東触1840-3		
自己評価作成日	平成30年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成30年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設としては、小さい施設だから出来ること、小さい施設にしかできないことを目指し、個別の対応に力を入れ、多くのイベントを大切にしています。また家族、地域ともつながりを持つべく、家族会の開催、交流や、公民館の行事に参加し、飲み会などにも参加。近い関係が築けている。特に、RAN伴への施設全体での参加は、当施設にとっても自信につながり、壱岐市の他の施設にとっても良い刺激になったのではないかと思います。また、壱岐市の研修や、介護フェスタの実行委員会への参加などを通じて、他の施設との交流も深まり、3月の島内での事例発表にもつながっています。施設としては、家庭観を大切に、食事に関して、好きな物を聞いたり、施設だからという考え方はすて、生ものやパン食、甘い物なども積極的に提供しています。今後もご家族と話をしながら、施設のあり方、過ごし方をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、理念をもとに介護目標「職員スキルアップ」「個別支援」を掲げ、利用者も職員も明るく、笑顔で過ごすことができる支援に取り組んでいる。今年度、公民館員となり、運動会や行事に地域の一員として参加している。地域安心ネットワーク、壱岐構想会議のメンバーとして行政との連携がある。「RUN伴」催しに全職員と全利用者の完走はグループホームの戸外活動の概念を超え、他事業所に影響を与え、知名度、人脈拡大に繋がっている。外出の多さは特筆すべきであり、外出先でのパラエティーに飛んだ外食も利用者の楽しみである。職員に安全に配慮した裁量権があることは仕事のやりがいにも通じている。体調や気分に合わせて利用者の自由な生活を大切に考え、家族の信頼関係に努めながら、笑顔で生活が送れるよう理念の具現化にチームで取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部試験での理念の確認。個人のわがままをいかに聞けるかを合い言葉にしている。	理念と、理念を基にした介護目標を事業所内に掲示している。新人職員は新人研修や内部試験で理解を深めている。また、1年を振り返り次年度目標へ繋げている。利用者一人ひとりの思いや言葉に傾聴し、家族と共に利用者の願いを叶えられるよう職員は理念の具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館員になり、草刈り、地区の行事への積極的な参加をした。定期的に交流がある。また、庭の開拓時に地域の人の雇用も促した。芋掘りや地域の保育所などとの交流もしている。	事業所は公民館員になり、管理者が総会や懇親会に出席している。草刈りや運動会、行事に職員と利用者が参加している他、カラオケ愛好会や保育園児との交流もある。吉岐安心ネットワークや「RUN伴+2017」参加など、地域との繋がりは年毎に広がり事業所の認知度も高くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の公民館長、民選委員さんが参加している。また、芋掘りなどの交流時も地域の方とふれあっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事など随時報告している。地域の保育所との交流や、作品展への作品の提供、芋掘りやあじさい見学など運営推進会議で出た意見から取り組むことも多い。	年6回、地元有識者をメンバーに迎え開催している。利用者状況、行事・ヒヤリハット報告の他、意見交換も活発である。詳細な議事録より透明性が窺える。花見、保育園児と交流、庭のガードレール設置などメンバーからの助言協力をサービスに活かした事例が多くある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加を頂き、意見交換をしている。また、吉岐市における今後の方向性なども構想会議などに参加している。今後の規模拡大についても相談中である。	市担当課とは、書類手続きや運営上の不明な点を尋ねたり、電話でも相談し情報共有している。管理者は、吉岐市の展望を課題とした構想会議に参加したり、認知症安心ネットワークに加入し行政と連携している。行政から案内の研修に積極的に参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束や虐待については勉強会で話す機会も多く、職員は理解している。玄関の施錠は夜間は防犯上行っている。	管理者が講師となり、内部研修を年2回実施し、又、身体拘束委員会を設置し委員を中心に理解を深めている。言葉の拘束はその都度注意し会議でも取り上げている。現在2名が家族の同意の下、センサーマットを使用しているが、毎月、解除に向けた検討を行っている。日中の施錠は無い。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の自宅のことは把握できないが、施設では内出血など、見られたときは随時報告することのなっている。高齢者虐待防止関連法は今後勉強会で行うことにした。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の自立支援については、毎月カンファレンスを行い取り組んでいる。成年後見人制度については、現在の利用者にはいない状況であり、今後の勉強会の課題とした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の契約時、または料金の改訂時など、家族一軒一軒に確認をしている。現在ご家族より、苦情などは聞かれない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表も参加されており、意見を頂いている。また、面会時に疑問点や、お願いなども言われ、利用者のみならず、家族にも個別対応がなるべく出来るようにしている。	苦情の窓口や処理手順を明文化し、家族へ説明している。家族の面会時には部屋担当の職員が利用者の状況を伝え、家族の要望は管理者へ報告し、管理者は家族に回答している。写真掲載の事業所便り「えがお」は家族へ配布し喜ばれている。意見箱の設置や家族会の開催など意見要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表も毎日顔を出され、とても気さくに話を聞いて頂いている。また、行事なども職員側からの発進でとても自由にやらせてもらっている。	職員は管理者へ日常的に意見を伝えている。また、各種委員会では職員一人一人が役割を持ち、企画提案している。事業所は、全職員に名刺を作り、責任とモチベーションアップに繋げている。自己評価と職員評価を基に年1回の個人面談の実施やスキルアップへの援助、自動販売機の設置など、働き易い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じた給与体系になり、内部試験などで取り組んでいる。また、やりがいも大事にして頂いており、職員の良いようにやらせて頂いている。名刺なども全職員に作って頂き、形のあるやりがいも示してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは、今後ではあるが、島外の物についても行きたい者への補助を考えて頂いている。職員の能力向上はとても大事に取り組んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉岐市内の同業のGHとの、職員の交換研修の実施や、研修、勉強会、運営推進会議への参加など会社を超えた交流が出来、お互いがとても良い刺激である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人の個別の相談や、やりたいことなど、鼻から否定するのではなく、積極的に取り組んでいる。例えば税金の申告、家を見たい、買い物のお願ひなど、聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族も路用者様と同様で、積極的に取り組んでいる。島外にてなかなか出来ない書類の役場への提出や、法事のお寺への送り迎え、病院への付き添いなど行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の、その時を見極めて、入所の判断基準の一つとしている。また、ご家族がお困りの時は、施設としても、チャンスだと思い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらからの一方的な介護ではなく、家として、家族として、本人のわがまま、訴えなど話して頂ける関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、家族会や、面会時に本人もふまえて話をすることも多い。気さくに話が出来ているため、お互いに顔の見える関係になりつつある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔していた習慣や、好きだったお店、喫茶店などに行き、入所前の友達と話す機会も作っている。施設側としては時間も、手間もかかるが、その光景を見ると、して良かったと思えるし、仕事のやりがいが出てくるという話もあがった。	職員は会話の中で得た利用者の新たな生活歴などを記録し、共有している。面会には家族や親戚、同級生などが訪れる他、利用者は携帯電話で連絡を取り合ったり、馴染みの美容院に家族と出掛けている。習慣だった年賀状や暑中見舞いも投函し、法事の送迎や墓参りに職員も同行するなど、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握した上で、関係の良いところ、悪いところがあるので、席や、声かけなどは注意し、職員が間に入りながら関係を作っているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の方など、経過などは気にしている。施設を退所された家族や、現在入所中の家族などから、あの施設はいいよと言って頂いているという話が耳に入ることもあり、職員一同で喜ぶ機会もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望など、毎月、職員全員でカンファレンスをし、本人の希望を大切にしている。	職員は利用開始時のアセスメントや日々の暮らしの中の会話や様子から、利用者の思いや意向を聞き取っている。表出が困難な利用者は元気な頃の様子や家族からの情報を参考にし、表情や仕草から思いを汲み取っている。事業所は利用者のさまざまな希望に柔軟に対応している。ただし、聞き取った思いの共有はこれからである。	聞き取った思いの記録など、職員で共有する仕組みや工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食生活や、焼酎を飲んだり、テレビや冷蔵庫など、これまでの生活にあった生活を送って頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで、1日の活動、有する力量など共通理解をし、その人一人一人にあった計画を立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファでは、必要な関係者との話し合いまではいかないが、それぞれの意見、アイデアを出し、柔軟なプランをだしている。	入居前に本人・家族の要望や情報を基に暫定プランを作成し、1ヶ月後全職員で評価し、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成している。支援内容は月間サービス計画書を利用し、モニタリングに活用している。家族の意向や医師の意見を計画に活かし、家族に了承を得て実践している。状態の変化には、その都度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のプランは、毎日その実施記録をとっており、カンファレンス時に見直ししながら、プランの中身をアップしたり、おとしたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	骨折後など、歩行状態が低下したときや、食事のレベルが低下したときなど、その都度、状況にあったプランに変更し対応したりもした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりと細かく地域資源は利用できていないが、施設としては芋掘りであったり、買い物であったり地域資源を利用している。防災時などの協力もお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医を利用している。施設として受診を促している病院はない。また、病院側も、うちの施設が看護師もいない点など考慮して頂いている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望に沿う他、定期や随時の往診がある。家族が通院同行する時は、利用者状況を記した書類を主治医へ渡している。受診結果は連絡合っている。薬の変更は管理日誌、申し送りで職員は共有している。夜間緊急時は、主治医の指示を仰ぎ、往診や救急搬送など、適切に対応できるよう整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、訪問看護師の利用はなく、自分たちで相談、検討、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側には施設が原則1ヶ月しか部屋を空けていない点はお伝えできたい。そのため、連携室の方と相談し、退院の調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は病院受診になり、病院側の判断になる点、看取りについては今後も施設では取り組んでいかない点などは入所時に特に十分にお伝えしている。その結果退所、入院に関して苦情が来たことなどない。	契約時、指針をもとに、事業所は医療行為を伴う看取りは行わない旨、家族に説明し同意を得ている。利用者状況に応じ、主治医、家族、事業所が協議し適切に移行している。ただし、本人の意思に沿い、主治医の往診協力を得て事業所で支援し、体調を取り戻した例がある。職員は同業者との交換研修にて医療の知識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当はすべてではないが職員は、おおむね受講している。しかし、受講はかなり前なので、ディの職員と相談し、人数が多ければ、再度受講しても良いのではないかと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	5月（夜間）、11月（昼間の火事）、3月（原発）の避難訓練に加え、昨年は水害の避難訓練も全職員に経験出来るように3回に分けて行った。	消防署立会い、夜間想定を1回、昼間想定、併設施設合同1回を其々、火元発見から避難誘導までの一連の火災総合訓練を行っている。その他、水害、原発自主訓練を行い、総評にて災害意識を高めている。消防団との連携がある。非常持ち出しや備蓄も消費期限を一覧表に記し、整備している。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなど、完璧ではないだろうが、その都度注意して対応している。	排泄や入浴時、また誘導の際、羞恥心に配慮して尊厳を損ねないよう支援している。ただし、呼び名や言葉掛けに於いて、時々馴れ馴れしい対応になるとのことである。個人情報は適切に保管し、職員には守秘義務について周知している。現在、写真掲載は口頭のみ承諾であり、書面での承諾はこれからである。	呼び名や言葉掛けに於いて、親しみを込めることは大切であるが、利用者の尊厳に配慮した言葉掛けの工夫に期待したい。また、写真掲載の承諾を書面に残すことが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身近なもので言えば、何が食べたいか？どこへ行きたいか？など、利用者の方の希望は聞いている機会は多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはなく、好きなように過ごして頂いている。また、自己主張出来る方も多いので、希望も聞きやすく、夜間の外出なども行きたいと希望があり、出かけた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は、個人的にされているが、イベントや外出時は職員が手助けして、女性の方などは化粧、髪をセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、パン食に対応したり、好きな者、食べたいものを聞き、希望の物を出すことが多い。また、食事の準備など常日頃から手伝って頂いている。	献立は職員が利用者の希望を聞き作成し、調理しており、食べやすい形状や嗜好に対応している。利用者は野菜の皮むきなど下ごしらえや盆拭きなど出来ることを手伝っている。利用者の希望に沿って中華料理や刺身、バーベキューなどを提供している他、行事食や季節感のある料理、外出先での外食や弁当などで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分などは記録をして、一日の水分量を確保している。また、一人一人の好物、嫌いな物なども把握し、一人一人メニューが変わることもしばしばある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る方は自分でして頂いている。介助の方も一度はして頂き、必要な部分だけ介助している。ポリドントはこちらで管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに関しては誘導が必要な方は、排泄状況を記録しており、でなかったときは、排泄のタイミングを早めたりしている。基本は全員トイレで排泄している。	日中はトイレでの座位排泄を基本としている。排泄チェック表を基に利用者の排泄リズムや状況を把握・共有し、声掛け誘導している。職員は排泄の自立支援の意義を理解し、毎月のケアカンファレンスで、パッド類の変更など本人に合った支援を検討している。夜間使用のポータブルトイレはその都度洗浄し、快適な排泄環境を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、ヨーグルトや果物など提供し、なるべく自然排泄を促している。また、排便の記録もしており、3日間排泄がないと薬の使用も検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は、ディサービスとの兼ね合いがあり、なかなか自由にいかない面もあるが、入浴は受診や外出、体調不良などの時は交代したりして対応している。基本は1日3人だが、4人、5人入浴するときもある。	入浴は週2、3回を基本とし、車椅子使用の利用者も湯船へ浸っている。夏場は毎日のシャワー浴を支援している。体調や気分が入浴出来ないときは、日時を変えるなど柔軟に対応している。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯などリラクスの工夫があり、利用者は職員と1対1の入浴の時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間は自由にされている。夜は加湿器、暖房なども自由にしている。朝も特に決まった起床時間はない。寝る前に焼酎を飲む習慣の方には焼酎を出している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効果はすべて把握してはいない。ので、今後一度確認しておきたい。ただ、内服薬の効果については主治医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段から、役割のようなお手伝い出来る範囲でお願いしている。また、食事、おやつ、飲み物や、買い物、編み物、植物いじりなど、個別の対応も出来る限り行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日急なお出かけには対応しきれないことが多いが、戸外へのお出かけ、家族からの外出支援など、希望があれば送迎、付き添いなど行ってきたことはあり、今後も柔軟に対応したい。	外出は多彩で、季節毎の花見やみかん狩り、芋ほり、歌舞団観賞や海の家、地域の祭りやイベントなど車椅子の利用者も一緒に、積極的に出掛けしている。花火見学など夜の外出もある。外出時は外食や買い物も組み合わせ、楽しみを倍加する工夫がある。その日の外出希望に対応出来ない時もあるが、可能な限りの支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、お祭りの売店で買ったり、ランチメニューで好きな物を選び、その支払いなど自由に使えるお金を家族より常に預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は最近やりとりされる方はいない。年賀、暑中見舞いなどは職員が、出すようにしている。電話は常にかけたいと希望があれば、夜間でない限りは、自由に掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は毎日掃除をし、清潔を保っている。壁には写真や、イベントの思い出などを貼り生活感、季節感なども表している。	季節を感じられるように、庭の畑一面に草花を植えている。リビングは広々として明るく、利用者は椅子やソファで寛いだり、談笑したり、居室と自由に行き来している様子が窺える。職員による毎日の清掃、換気、温度調節で、臭気もなく、清潔で快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部屋個室であるため、自由に部屋で過ごされる方も多い。ディールームでは、ソファなどもあり、人の数より、イスの数の方が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は飾り付け、家具などは自由である。ただ、あまり面会はなく、家族が相談しているかは疑問に残ることもある。	居室ドアの小窓にはプライバシーに配慮してカーテンを施している。利用者は使い慣れた寝具、テレビ、収納具などを持ち込み、写真や賞状を掲示しており、職員は本人が居心地よく落ち着けるよう配慮している。シーツ交換を週1回行い、毎日、清掃、空調管理している。ただし、ポータブルトイレやパッドが他から見える状況にある。	居室の設えとして、使用しない時間帯のポータブルトイレや排泄に使用するパッド類が目につかない工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月の月間サービス計画では、基本的に本人が出来ていることを、維持していくことを目指して計画を立てている。今後もその考え方でいきたいと思っている		